

外来生物の定着を後押しする人為的な餌供給

(鳥類への餌やりを考える第5回)

長谷川理(エコ・ネットワーク)・小泉伸夫(農業・食品産業技術総合研究機構)

外来生物の問題は、侵入経路の特定、在来生態系への影響評価、駆除・防除手法の開発などが主な課題であるが、これらに加え、外来生物が定着できるかどうかを左右する要因の解明も重要であろう。ブラックバスなどは在来種を捕食することで侵入先の環境でも生息できると考えられるが、一方でコブハクチョウのように、人間からの餌供給が生息を可能にしている一因だと考えられる外来種もいる。

なかでも侵入の初期、外来生物が新たな環境中に足がかりをつくる過程で、人為的な給餌が大きな役割を果たす可能性がある。個体数がごく少ない時期には外来種の存続可能性も小さいだろうが、そこで人間からの餌供給があると定着を後押ししてしまうことになる。そして一旦個体数が増加・安定してしまえば、在来生物の捕食や、ニッチの重なる在来種との競合、あるいは種間交雑を起こすようになり、在来生態系に影響を与えることになる。

本集会では、外来生物の定着におよぼす人為的な餌供給の効果・影響について情報交換し、議論したい。どのような外来生物種に対して、餌付けをはじめとする人為的な餌供給が行われているか。そうした餌供給が、外来生物の定着や個体数増加に一役買っているのか。外来生物を減らす対策として、餌付けの禁止や人為的な餌供給の抑制が功を奏すると考えられるか。そうした課題について考えたい。

<発表予定>

- 1) 趣旨説明: 外来生物の定着と餌供給の関係について
長谷川理 (エコ・ネットワーク)
- 2) 外来生物クリハラリス(タイワンリス)の餌付けについて～鎌倉の事例より
金田正人 (生物多様性 JAPAN)
- 3) カナダガン除去対策に餌付けが果たした役割 - 河口湖の事例 -
葉山久世 (かながわ野生動物サポートネットワーク)
- 4) 給餌が支えるコブハクチョウ
藤岡正博 (筑波大学・生命環境)
- 5) 給餌を受ける可能性のある外来鳥類
天野一葉 (滋賀県立琵琶湖博物館)